

阪神電車従業員の組織する談笑俱樂部は青木の本部に會合し現在の給料ではとても生活が出来ぬから一日一人參拾錢の値上の陳情を以て議し代表者を撰び八日午前十一時三崎に専務會見を求め交渉したが能よく跳ね付けられたので十三日午後七時から沿線武庫郡公會堂で談笑俱樂部主催の阪神電鐵従業員大會並に糾弾演說會を開催する事となつた。來會者は千餘名で依田實行委員長席に着き會社に對する左記要求書を滿場に諮つて可決し實行委員は十四日三崎專務に提出する事に決定した。夫から演說會に移り依田安藤木村柴田東氏等は交々立つて交通労働者の爲めに大いに氣焔を擧げ近來にない盛況を呈した。

要 求 書

一、日給參拾錢値上を斷行すること

二、解雇手當の増額

三、慰勞金制度の改正

尙十四日も午後七時から前日同様尼崎圖書館樓上に大會を開いた。來會者五百餘名依田實行委員長席につき西宮公會堂と同様の決議をなし終つて演說會に移り柴田、川島其他數氏熱辯を振つたが何れも中止を命せられ最後に西部交通労働組合員上田氏が演壇に立つや直に中止を命せられたので滿場總立となり大騒を演じたが警官は直に演說會の解散を命じ同時に川島、上田外三名を檢束した。

新しくして二十日午後に至り談笑俱樂部では黒川外四名の委員が従業員全部を代表して前記三ヶ條の要求を携へて三崎專務を訪問したが會社側では其場で要求を拒絶したので同夜は深更まで沿線青木の組合事務所協議を重ね二十一日は朝來非番の俱樂部員がピラ五千枚を撒布したので尼ヶ崎、東明、野田各操車所屬の車掌運轉手に百名内外の缺勤者を絶依岡外二名の委員は會社が要求を容れるまでは同盟罷業をも辭せぬと敢闘してゐた。

談笑俱樂部が會社に要求した待遇改善の拒絶から漸次怠業状態に入り二十一日以來多數の缺勤者を出したが二十二日には一部の者の間には斷然罷業を決心せんと敢闘く者もあつたが、平常通り電車は運轉せられてゐた。尙二十一日従業員に撒を飛ばした同俱樂部では二十二日朝から『阪神沿線市民諸氏に訴ふ』といふ従業の内幕をさらけ出した一萬枚のピラを乗降客に撒いた。

斯くして漸次險惡に傾いた同會社従業員は二十三日も野田、東明、尼崎各車庫を通じて缺勤者益々多く同社では取不致致習所長以下各車庫非番監督を全部召集して日曜日の事とて激増せる乗客の運輸に努めたが一方出勤者も故意に『ボール脱し』などしたさうである。

尙全従業員は二十四日より罷業を斷行すると仲々の勢を示めしてゐたが談笑俱樂部の依岡外數名の幹部は各自の各重を促す爲めに二十三日朝來従業員の自宅を訪問してゐたが、中には依岡以下の行動に對して